

開放特許で夢を実現

自動化装置のミス（川崎市高津区久地、☎044・813・7530）が日産自動車の開放特許を利用して開発した「部品自動供給装置」が、大手自動車メーカーに続々と採用されている。ボルトやナットなどの細かい部品は、ものづくりのさまざまな工程で使われる。しかし、現場では部品を取りに移動する時間がムダであったり、供給ミスが不良品につながったりする。同装置は、部品数量と供給パターンを工程ごとに設定すると自動供給する。数年前に開発した念願の自社製品という。

日産の技術を活用し自社製品

金属部品用「パーツカウンター」と樹脂製部品用「樹脂ファスナーカウンター」の2種類。いずれも価格は19万8000円（税別、送料込み）から。すでに日産自動車などの生産ラインで採用されており、導入後に約20%も生産効率がアップした現場もあるという。今では中国や韓国、スペインでも使われている。もともと大手光学機器メーカーで社内の生産設備を手掛けていた技術者たちが「面白いことがしたい！」と、1991年3月に創業。工業製品の生産で使用する「自動生産装置」の受託製造を手掛ける。しかし“受託型産業”のため、自分たちの思いとお客さんのニーズにはギャップも存在する。それだけに創業時の思いを具現化する「自社製品を持ち

たい」という夢を持ち続けていたという。

■装置原型を改良
転機は6年ほど前。市産業振興財団の知的財産マッチング担当コーディネーターから知らされた大手企業の開放特許情報。同社の酒井高雄会長からは、日産が開発したパーツ自動供給装置の技術に興味を示した。

「実際に日産の工場が使われていた装置の原型を見に行きました。（この技術を使って製品化が）できると思い即決しました」と酒井会長。すぐさま契約した。

とはいえ、製品を普及させるためには、小型化やコストダウンをしなければならない。それらを一一つクリアし、最終的には「モノを見て現場で決断できるよう決裁不要の20万円以下としました」（酒井会長）。

現在、同社の売りに占める自社製品の割合も25%に高まり、“装置メーカー”となりつつある。本年度の販売目標は、金属用・樹脂用を合わせ1000台という。

売上高比率4分の1に



ミス



仮型の可能性



加川製作所

プレス加工の加川製作所（綾瀬市深谷上、☎0467・76・4886）は、「仮型」を有効活用したのものづくりを提案する。通常は試作品生産で用いる仮型だが、わざわざ本金型を製作しなくても、部品や生産数次第では、仮型だけで生産できるケースがあるとしており、結果的にコストダウンにもつながるとい

プレス加工の世界では、量産に移る前に、まず簡易的な仮型で試作して検証。それから本金型の製作に入る。しかし本金型は製作に時間がかかり、費用もかさむ。

早くて安く その点、仮型は本金型と比べると、製作期間が4分の1、平均すると2週間程度で済む。費用も8分の1程度という。同社では自動車業界を中心に、車体やエンジン回りなど、プレスによる試作部品を手掛けており、仮型も年間数百種を自社生産している。そうした経験から「仮型の有効性」を知り尽くしており、これを他業界にも広めていきたいという。

一方、これまで機械加工などでやってきた複雑な形状の部品を早くて安いプレス加工でできるようにする「3次元プレス加工」も展開。得意の深絞り駆使したプレス加工による生産を受注していく。

「同じような部品でも、自動車業界では1回のプレス加工で終わるものが、他業界では溶接を重ねて加工するなど、全く異なる工法でやっている場合もあります」と加川氏社長。

現在、電子部品業界などにも販路を広げており、工場の稼働率は100%を超えているという。

取材メモ
いつ取材に行っても工場内が常に忙しい同社。取引先となる自動車業界は、海外工場への生産シフトを進めるが、加川社長は「試作品の仕事はこれからも絶対に国内にあります」と強調する。というのも、業界ではまず試作品を国内で行い、それから海外工場で量産する流れが確立されているから、だという。

【ご遺族への挨拶】
○この度は誠にご愁傷さまでございます。心よりお悔やみ申し上げます。
【会葬品・返礼品を受け取る時】
○恐れ入ります。
故人を偲ぶ思いや、遺された方を気遣う言葉を短くシンプルにお伝えするのは、とても難しいことですが、お葬式の場面でご遺族とお話できる時間はあまり多くありません。なぜなら、ご遺族は多くの弔問客に対してさまざまな応対をされています。ですので、弔問した際には配慮を心がけることが大切です。
また、お葬式での挨拶は、小さめの声でお話するのがマナーとされており、語尾は聞き取れないくらいがちょうど良いとも言われています。ていねいなお辞儀も必須です。
お葬式というのは、とてもセンシティブな場ですので、失礼のない振る舞いができるように、心の片隅にでも留め置いてください。
(清水誠葬具店副社長・清水ふじ代)

どんぶり勘定だから伸びる



本紙連載「小規模企業が日本を救う」執筆中の事業承継・再生コンサルタントの立石裕明さん（アテナソリューション代表）が初の著書を出した。「どんぶり勘定だからこそ、あなたの会社はこれから伸びる！～小規模事業者革命～」（きこ書房刊）で、全国各地でこれまで1000回に上る講演や研修をしてきた立石さんが、延べ5万人にも及ぶ中小・小規模企業の社長らと接してきた経験から見てきたことを記した。

立石さんは現在、経済産業省や中小企業庁の政策ブレーンとしても活躍。「小規模事業者持続化補助金」の立案者の一人でもある。

もともと、淡路島の旅館の3代目として事業承継を経験。兵庫県商工会青年部連合会会長も務めた。しかし、阪神淡路大震災で被災、事業再生をすることに。見事再生を果たし、事業拡大とともに株式公開の準備を進めていた中で、今度はリーマンショックや東日本大震災の影響を受ける。そして2011年に倒産を余儀なくされる。

経営者として「天国と地獄」を味わってきた立石さんだが、その経験を生かすべく事業承継・事

見えてきた小規模企業の将来性



在庫保管します

加瀬運輸

御社の在庫、保管します。加瀬運輸（横浜市鶴見区駒岡、☎045・575・1126）は、出荷前の商品や在庫などを保管するサービスを始めた。同社倉庫の2階部分（約500平方メートル）を8分割し、それぞれのスペースを貸し出す。

運送業の強みを生かして、商品の引き取りから保管までをワンストップで提供する。

倉庫内にはフォークリフトも置いてあり、運搬は同社スタッフに依頼できる。自社倉庫がキャパオーバーで保管場所に困っている企業などに営業していく。価格は1区画（約23平方メートル）で月額3万4500円（税別）。

都内に近く、自動車による交通アクセスも良いことから「商品の中継地点としても活用できます。しかも賃料はトランクルームよりも割安です」（西中鉄也社長）と話している。

■遺品整理も好調
一方、同社は新規事業として、故人の遺品を片付ける「遺品整理事業」も本格化させている。

業再生コンサルタントの道へ。今では年間150本の講演が入る売れっ子ぶりだ。

そんな立石さんは自身の著書について「下町ロケットの佃製作所を中小企業ではなく大企業だと感じる人に向けた本です」と前置き。「いわゆる“父ちゃん母ちゃん企業”には伸びしろしかありません。どんぶり勘定でも、ちゃんと存続できたからです。次はどんぶり勘定から“定食勘定”にするなど、意識をちょっと変えるだけで必ず向上します。この本が、そのためのきっかけになれば…」と話している。

著書では「メシの種を探そう」「お金を増やす掃除術」「TTP（徹底的にパク）の旗を掲げよう」など、小規模企業がすぐに実践できる内容が盛り込まれている。

まず遺族と「どんなものが貴重品に当たるのか」を打ち合わせし、仕分け作業を始める。古物商の認可も受けていることから、家電など不要品は買い取り、その分を値引きすることも可能だ。また、処分前のものは遺族にも一度確認してもらおう。

価格はマンション2DKで13万円（税別）から。すでに毎月依頼が寄せられているという。



社長さんが知っておきたい冠婚葬祭のマナー

皆さまは、お葬式に参列する際、受付のご挨拶や、ご遺族に何とお悔やみの言葉をかけられますか？
お悔やみの言葉とは、故人の死を悼み悲しむ気持ちを込めて述べる言葉です。
大切な方を失って落ち込んでいる方に対して、どのような言葉をかければ良いのか悩みますよね。ことさらに、初めてお葬式に参列するという場合はなおのことです。
そこで今回は、お葬式でのご挨拶についてご紹介します。
お葬式でのご挨拶で大切な事は、「短くシンプルに」ということです。
では、こういった言葉を述べるのが良いのか、一般の参列者として【受付にて】
○この度はご愁傷さまで。
【お香典を渡す時】
○故人のご霊前へお供えください。

交通アクセス良く「中継点にも」

3次元プレス加工も